

## NIC-Japan セミナーシリーズ「タイの高等教育制度・高等教育資格」 講演概要

本資料は、2023年1月30日（月）開催のNIC-Japan セミナーシリーズ「タイの高等教育制度・高等教育資格」の講演概要をNIC-Japanがまとめたものです。本文の記載のスライド番号は、当日の[講演資料](#)に対応しています。

### タイの教育制度の概要（スライド2）

- ・ 6-3-3-4 制の学校体系。
- ・ 職業技術教育は中等教育段階と高等教育段階における上級ディプロマ課程で主に提供される。
- ・ Thai Qualifications Framework for Higher Education (TQF) は、タイの高等教育資格を次の6つのレベルに分類している:
  - レベル1：Advanced Diploma（上級ディプロマ）
  - レベル2：Bachelor's Degree（学士）
  - レベル3：Graduate Diploma（学卒ディプロマ）
  - レベル4：Master's Degree（修士）
  - レベル5：Higher Graduate Diploma（高等学卒ディプロマ）
  - レベル6：Doctoral Degree（博士）

### タイの大学入試制度「TCAS」（スライド3）

- ・ Thai University Central Admission System (TCAS) はタイの統一的な大学入試制度。次の4つの試験種（ラウンド）で構成され、タイの大学への進学を希望する全ての生徒はTCASのいずれかのラウンドで合格する必要がある：
  - ①ポートフォリオの提出。試験はない。
  - ②地域枠や、スポーツや技術に秀でた生徒に対する枠
  - ③上記①・②以外の全ての生徒が受験。graduate attitude test と specific attitude test
  - ④上記①～③で合格できてない生徒向けの大学の独自試験

### タイの高等教育改革（スライド4-11）

- ・ 2019年5月まで、高等教育を所管する機関は教育省（Ministry of Education：MoE）の高等教育局（Office of Higher Education Commission：OHEC）だった。2019年5月以降は高等教育科学研究革新省（Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation：MHESI）に再編された。高等教育、科学技術、調査研究を所管。
- ・ MHESIは2037年までにタイの高等教育や科学技術のレベルを国際水準にまで引き上げることを目標に掲げているが、大学をはじめMHESIの所管機関の多くは独立性を有する「Autonomous public agency」に分類され、国一体となったプロジェクトの推進に難しさがある。
- ・ 省の政策方針（2020-2027年）は4つの柱で成り立っており、うち3つは調査研究に主眼を置いたもの。この方針は国の経済社会発展計画に紐づいている。またMHESIでは、人材育成に絞った2023

年から 2027 年までの 5 か年計画もあり、そこではすべての年齢層に質の高い高等教育を提供することを目的に計画が立てられている。

### タイの高等教育基準 (スライド 12-16)

- ・ 「高等教育を提供するための省令」は次の 3 つの領域により構成される：
  - ①校地・資源 (インフラや人的資源)
  - ②権限・義務 (教育研究を効果的に行うための運営方法)
  - ③教育管理 (教育研究を改善していくためのガバナンス体制)
- ・ 「高等教育カリキュラム基準に関する省令」はプログラムを提供するうえで順守すべき基準。プログラムの目的や授与する学位、単位制度や学習成果が規定されている。この基準は、大学の自治を尊重しながら、学生のコンピテンスの向上や、多様な学習方法を促進するつくりになっている。
- ・ それぞれの学位の必要修得単位数：
  - 準学士：60 単位 (2 年課程)、90 単位 (3 年課程)
  - 学 士：120 単位 (4 年課程)、150 単位 (5 年課程)、180 単位 (6 年課程)、72 単位 (継続課程)
  - 修 士：36 単位
  - 博 士：72 単位 (学士取得者)、48 単位 (修士取得者)

### タイ高等教育の方向性 (スライド 17-32)

- ・ 技術や社会の情勢が急速に変化する世の中では、大学を卒業した後も継続的に自身の置かれる状況の変化 (職業の変更など) に合わせて学びなおす必要があり、大学はそのような継続的な学習を支援する環境づくりが求められる。
- ・ 急速に変化していく世の中では、積み上げた学習の量よりも、学習した内容が学習者の将来に与える影響が重視されていき、プログラムを通じて得られる学習成果が極めて重要である。将来に与える影響力を向上させるためには、知識を学ぶだけでなく、卒業後も、変わりゆく世界で学んだ知識をその時々状況に合わせて活用していけるような能力を涵養していくべきである。
- ・ 人工知能等の技術革新が目覚ましい中で活躍する人材として生き残るためには、①学習した知識をあらゆる場面で活用することができ、②実際に行動に移すことのできる技能を持ち、③社会規範に合せた倫理観を持ち、そして④特定の職業人としてのマインドを持ち合わせる必要がある。TQF はこのような能力や思考法を学習成果として整理し、学位プログラムごとに身につけるべき学習成果を設定している。
- ・ MHESI では新たな時代に高等教育を対応させるため、以下をはじめとする諸政策を推進している：
  - 高等教育 Sandbox：従来のカリキュラムの基準とは異なる枠組み・手法で提供されるプログラムについても、これらが産業界のニーズに合った人材を育成するものであれば、MHESI の承認に基づいて提供することができる。
  - National Credit Bank：学生が積み上げた単位を国のデータベースに登録し、学生の単位互換など既修得学習の承認を円滑化したり、特定の技能を有する人材を国が把握する手助けとなる。
  - Reinventing University：大学を特性ごとに 5 つに類型化 (①研究志向、②国際通用性のある技術革新、③職業人の涵養、④地域志向、⑤宗教教育) し、この特性の強化を促進する。

**KMUTT の生涯教育の取組「KMUTT4Life」(スライド 33-49)**

- ・ モンクット王工科大学トンプリー校 (KMUTT) では、生涯教育の取組としてマイクロクレデンシャルを提供している。急速に変わりゆく世の中では長い時間をかけて一つの学問を積み上げていくことは難しく、教育を受けて職業に就き、また教育を受けて別の職業に就く、とその時々に合わせて必要な知識・技能を習得するために教育を受ける場面が増えていくことを見据えて、マイクロクレデンシャルを採用している。ただしマイクロクレデンシャルが従来型の学位プログラムにとって代わるわけではなく、それぞれの強みを生かしながら共存していくことが望まれる。

以上